

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

◆私たちの探鳥会自慢

「南富士支部での仲間づくりの工夫について」・・・1

◆トコロジストになろう

「北海道のトコロジストたち」・・・3

◆「納涼野鳥まつり」参加報告（大阪支部）5

◆探鳥会保険集計結果

（2014年7月分）・・・6

◆普及室からのお知らせ

・探鳥会リーダースフォーラム開催要項・・・8

・新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み・・・10

◆今月の購読者数・・・12

◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・13

◆編集後記・・・13

◆私たちの探鳥会自慢

南富士支部の中根さんから、支部における仲間づくりの工夫について記事をいただきました。

「南富士支部での仲間づくりの工夫について」

静岡県の南富士支部は、会員数 172 名（2014年8月現在）のアットホームな小さな支部です。支部の探鳥会には、「月例探鳥会」と「ウィークデー探鳥会」があり、それぞれ月に1回ずつのペースで開催しています。開催場所は季節に合わせて、毎月変えています。

改めて考えてみると、支部として特別な「仲間づくりの工夫」をしているというよりは、探鳥会で何度かお会いしている内に結果的に親しい方が増えていく…というのが実際のところです。

■初心者グループ

第一歩としては、初めて探鳥会に参加された方がつまらない思いをされないように、また、初心者の方がおいてきぼりにならないように、支部の月例探鳥会では「初心者グループ」を編成しています。「初心者グループ」では、ヒヨドリなどの普通種であってもフィールドスコープでじっくり観察してもらうなど、きめ細やかなサポートを心がけています。貸

出用の双眼鏡も用意していますので、手ぶらで初参加の方でも大丈夫です。レンズを通して初めて間近に見る野鳥の姿に、「初心者グループ」の皆さんからは、驚きとともに感激の声が上がリ、一同で笑顔を共有できる一時となります。



▲大活躍の展示パネル、バラして車に積み込みます

■ティータイム

月例探鳥会の後には、現地でちょっとしたティータイムを設けています。学校でも教科の事より雑談の方が印象に残っていたりするものなので、「授業中」の探鳥会で聞いた話だけでなく、「放課後」にお茶を飲みながら交歓する事によっても仲間意識は醸成されているかもしれません。日曜大工が得意な幹事さんが作ってくれた組立式の展示パネルを現地に設置して、野鳥の生態や図鑑・書籍などの紹介などをしており、パネルの前では、カップ片手の皆さんの情報交換に花が咲きます。支部の販売担当は、このティータイム中に、野鳥の会のグッズや図鑑などを並べて皆さんに紹介しており、探鳥会が済んだ直後だけに、こちらでも実物を手に取ってのおしゃべりが弾みます。

■野鳥写真、連載記事、支部報

また、カメラ上手な幹事さんが撮った野鳥写真をプレゼントしたり、支部で野鳥エッセイを連載中の地元ローカル新聞を配布したりして、お家に帰られてからも探鳥会の事を思い返していただけるようにしています。

さらに探鳥会初参加の方には、支部報「さえずり」の翌月号を無料送付することにしてあります。探鳥会デビューの感動が薄れない内に、次月の探鳥会案内を届けることで、少なくとも「参加しっぱなし」という事態はある程度防げていますし、続けて2回目以降の探鳥会に参加された方が、その後、野鳥の会に入会していただけたケースも多いように思います。

■イモ煮探鳥会

秋にはイモ煮探鳥会を開催しています。探鳥会の後に振る舞われる南富士支部の豪華イモ煮鍋は毎年大人気で、支部会員のご家族やお友だちの参加も大歓迎です。ティータイムの時よりさらに時間が取れるので、冬場に向けて、野鳥を庭に呼ぶためのエサ台のことや、野鳥を取り巻く地域の現状などについてじっくり話すこともでき、ここでも展示パネルは大活躍です。「同じ釜の飯」ならぬ「同じ鍋のイモ煮」に舌鼓を打つことが、仲間意識や親近感を育てる原動力になっているのかもしれ

ません。



▲丸火自然公園探鳥会（イモ煮）2013.11.24

■初心者向けバードウォッチング講座

一昨年からは、富士山の麓にある田貫湖で初心者向けバードウォッチング講座を開催しています。南富士エリアで見られる野鳥についてスライド上映で予習したあと、屋外に出て湖面のカモ類や湖畔のカラ類をじっくりと観察していただきます。双眼鏡などの選び方や使い方も具体的に紹介して使い慣れていただくなど、座学と実習の二本立てで、受講者をバードウォッチングの世界に引きずり込む作戦です。普段の探鳥会よりさらに詳しく、野鳥とゆっくり向き合うことができるので、受講者だけでなく講師側も楽しんで取り組んでいます。今年で3年目ということで、まだ受講者の総数には課題がありますが、当初の作戦通り、受講後の方が野鳥の会に入会して下さる率は高くなっています。

■これからも仲間との出会いを大切に

南富士支部は、規模は小さいながら、これまでにご紹介した月例探鳥会やバードウォッチング講座のほかに、野鳥保護や調査研究などの活動も活発で、それら各活動を繋ぐ支部報「さえずり」の発行も毎月継続しています。

以上のように、幹事さんたちのチームワークを中心として、支部会員の皆さんの輪が何重にも重なって、南富士支部を支えてくれています。これからもバードウォッチングを通じて多くの仲間との出会いを楽しめればと思います。

(南富士支部編集部 / 中根敏雄)

◆トコロジストになろう

第6回「北海道のトコロジストたち」

■西岡の自然を語る会の誕生

札幌支部が豊平区にある西岡水源池ではじめて探鳥会をおこなったのは、支部報「カッコウ第6号」によると1979年7月8日のことである。以後定期的な探鳥会をここで開催し、西岡水源池における鳥類の生息状況が少しずつあきらかになってきており、池の周辺では毎年カワセミやマガモの繁殖も毎年確認されていた。

しかし1984年11月、池のほとりで突然貸しポート上の工事が始まった。札幌支部は市議会に陳情書、札幌市役所に要望書を出し、野鳥の生息環境を守るために中止要請をしたのである。この貸しポート場計画には、他団体などからも反対の陳情・要望がつづいていた。このような流れのなかで地元住民、日本野鳥の会や自然愛好グループのメンバーが集まり「西岡の自然を語る会」が発足した。

さいわいにも貸しポート場計画は中止となったのである。多くの地域自然保護の団体は、ひとつの目的が果たされると解消してしまいがちではないだろうか。けれども私たちの活動はむしろここからスタートしたともいえる。「まず私たちが西岡の自然をもっとよく知り、自然の中で楽しもう」といくつかの活動を始めた。そのひとつが毎月第三日曜日に開く観察会「自然散歩」であり、現在もつづいている。またいわゆる専門家をまきこみ生きものの調査活動を始め、その報告書もまとめている。せまい地域だけにこだわっているのは、活動の広がりがないのではないかという指摘もある。しかし私たちはあくまでも住民としての視点を大事にしたかったのだ。

■ふるさと生きものの里

さて長い前置きになってしまった。1989年、当時の環境庁が全国から100箇所ほど、身近な場所で、昆虫や野鳥などをとおして自然環境をたいせつに守っている地域・団体を「ふるさと生きものの里」として選定した。北海道からは4つの場所と団体が選ばれ、われらが「西岡水源池」そして「西岡の自然を語る会」もその

ひとつだったのである。同時に選定された「栗山オオムラサキの会」が呼びかけ、1992年から「北海道ふるさと生きものの里交流」が始まった。この段階で活動実態のあるのは3団体であり、もうひとつの団体は「丸瀬布昆虫同好会」であった。交流会は今年で22年続いているのだから驚いてしまう。



▲丸瀬布昆虫生態館前で交流会記念撮影

私が「トコロジスト」ということばを知ったのは、2009年である。この年は西岡の自然を語る会が「生きものの里交流」の担当年で、テーマをピーチコーミングとした。講師を招き講演とその実際を楽しく体験した。じつはこの時の教材が、浜口哲一さんが著した「海辺の漂着物ハンドブック」であったのだ。これがきっかけとなり、インターネットで浜口さんの活躍ぶりを検索するなかで、「トコロジスト」という言葉と考え方に会ったというわけである。言葉の意味するところと考え方を知ったとき、これは私たちのことを言っているのではないかと思ったほどである。そして交流をつづける二つの団体にも、まさに「トコロジスト」という概念が共通していると感じたのである。

■栗山町のトコロジストたち

空知管内栗山町の「オオムラサキの会」を紹介する。1985年地元でオオムラサキが発見されたのを機に、それをシンボルにして自然環境を保全する機運が高まり、以来市民と行政が一体になって広範な活動を展開している。北海道

では初めて「里山」の概念を取り入れて町おこしを始めた所で、その後離農した農家の土地を町が取得し、そこで里山づくりを進めている。野鳥愛好グループや植物の会、さらに青年会議所のメンバーも加わり、さまざまな活動を現在も続けている。数年前には企業の支援を受け、廃校になった小学校を利用し、宿泊可能な環境教育プログラムを実施する NPO 法人をつくり運営している。



▲水辺の生き物観察

■丸瀬布のトコロジストたち

つぎに紹介するのは、北見管内遠軽町丸瀬布にある「丸瀬布昆虫同好会」だ。偶然なのだがこちらも西岡、栗山と同じ 1985 年に活動を

始めている。会は行政に昆虫での町おこしをはたらきかけ、昆虫生態館を作り、専門家を雇用し、みごとな生態展示をしている。現在の活動は町内の子供を対象に「わくわく自然体験」という行事を毎月おこなっているほか、昆虫生態館の展示づくり、昆虫の調査・保護活動、近年は特定外来種の駆除もやっていて、それらが評価され 2013 年には環境大臣表彰を受けている。

■トコロジストになろう

自然の中へ入り、そこで見たこと、知ったことからその場所の自然環境の大切さを感じる人は多いはずだ。身近に自分のフィールドを持ち、より多くの人々がトコロジストをめざしてほしいものだ。

日本野鳥の会は、ちょうど八十年前に生まれた。創設者の中西悟堂さんがそれまでとは違った鳥と人間の関わりを模索する中で、新しく「野鳥」や「探鳥」という言葉を造った。同じようにこの「トコロジスト」という言葉も、今までになかった考え方・行動の方法を表現するためにどうしても必要な言葉なのだろうとおもうのだ。

(札幌支部支部長／山田三夫)

◆「納涼野鳥まつり」参加報告（大阪支部）

8月3日（日）、大阪支部会員の集い「納涼野鳥まつり」が開催されました。第2部の 幹事・リーダーと語ろう「日本野鳥の会大阪支部のこれから」に参加しましたので、そのときの様子を報告します。



▲第2部の様子

■第2部の様子

会場にはカメラマンの会員の方が参加されており、野鳥観察者と撮影者の対立について意見を述べられました。

*「探鳥会での観察」と「撮影」の違い

カメラマンの会員の方から、「カメラマンは悪く言われることが多いです。確かに、撮影のためには手段を選ばないようなカメラマンがおり、問題に思っています。しかしカメラマンの立場からすると、大人数でどっとやってくる探鳥会も、せっかくいた鳥を飛ばしていると思うことがあります」という投げかけがありました。

それに対して会場からは、「探鳥会では、何種の鳥が見られたかという数を重視し、移動しながら観察をしていますが、カメラマンは、種類も場所も絞って撮影に行くので、立場が大分違いますね」という意見や、「探鳥会参加者としては、カメラマンがずっといるので鳥が来ない、自分たちが近づけないという気持ちになると思います」、「特にカメラマンが繁殖期の野鳥を撮影することへの影響を問題視しています」という意見があがりました。

*カメラマンが守っている探鳥地

カメラマンの会員の方から、大阪支部に協力をお願いしたいという話がありました。

「冬になると貴重な渡り鳥が渡ってくる場所がありますが、そこは、オフロードバイクのメッカになっており、多い時には100台のバイクが走り回っています。警察に通報して何回か検挙してもらうなど個人で活動していますが、会としても一緒に取り組んでいただけたら有難いです」

特定の場所に留まって撮影をしているカメラマンだからこそ対応できたともいえる事例。幹事の方からは、「支部としても一緒に対応していきたい」という答えがありました。

*野鳥の会とカメラマンの共存

カメラマンの会員の方から、「自分は野鳥の会の会員であり、カメラマンでもあります。お互いの立場が分かるので、カメラマンを排除するようなやり方ではなく、お互いの立場を理解しながら、観る人も撮る人も一緒に楽しめる道を探っていけないかと考えています」という意見がありました。

会員や幹事の方からは、「写真を撮ることの敷居が下がり、カメラを趣味とする人が増えた今、野鳥の会の会員を増やそうと思ったらカメラを趣味としているかたちを取り込むことが鍵になっているのではないか」という話がされていました。

■まとめ

今回、写真を撮る側からの率直な意見が聞けたことで、気づくことが多くありました。会員の方と幹事の方で集まり、気軽に普段感じていることを話す場所があることの良さを感じました。

（普及室／堀本理華）

◆探鳥会保険集計結果（2014年7月分）

7月は65支部からご報告をいただき、計178回の探鳥会が開催され、のべ3,259人が参加されました。

表1. 7月の探鳥会保険集計結果（2014年8月15日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
小清水	-	-	-	-	-
オホーツク支部	1	13	8	1	22
根室支部	-	-	-	-	-
釧路支部	-	-	-	-	-
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	0	0	0	0	0
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	3	63	14	6	83
小樽支部	2	7	7	2	16
苫小牧支部	-	-	-	-	-
室蘭支部	1	6	0	1	7
函館支部	-	-	-	-	-
道南桧山	1	11	7	3	21
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	2	18	3	2	23
秋田県支部	4	31	1	4	36
山形県支部	1	6	2	2	10
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	1	17	4	3	24
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	3	38	16	5	59
ふくしま	2	45	1	5	51
郡山支部	1	14	0	3	17
二本松	1	5	0	1	6
白河支部	2	12	0	2	14
会津支部	-	-	-	-	-
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	1	13	1	1	15
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	8	81	38	12	131
栃木	-	-	-	-	-
群馬	7	62	12	16	90
吾妻	0	0	0	0	0
埼玉	5	145	18	43	206
千葉県	6	50	10	24	84
東京	11	248	8	47	303
奥多摩支部	8	92	15	28	135
神奈川支部	9	119	29	33	181
新潟県	-	-	-	-	-
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	2	20	5	2	27
石川	1	14	0	3	17
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	2	21	2	3	26
軽井沢支部	2	10	19	2	31
諏訪	1	1	2	2	5
木曾支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	-	-	-	-	-
甲府支部	2	39	9	3	51
富士山麓支部	1	5	6	2	13
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	11	0	2	13
南富士支部	1	5	0	1	6
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	5	25	0	7	32
遠江	1	35	1	4	40
愛知県支部	7	54	59	17	130
岐阜	-	-	-	-	-
三重	0	0	0	0	0
奈良支部	2	55	1	4	60
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	3	12	11	6	29
京都支部	4	53	28	8	89
大阪支部	21	270	46	99	415
ひょうご	3	42	29	9	80
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	16	14	3	33
島根県支部	0	0	0	0	0
岡山県支部	3	60	32	11	103
広島県支部	2	13	11	2	26
山口県支部	1	8	4	1	13
香川県支部	2	42	7	2	51
徳島県支部	5	57	3	5	65
高知支部	1	7	13	1	21
愛媛	5	39	30	7	76
北九州	1	7	0	1	8
福岡支部	6	81	14	15	110
筑豊	2	9	0	2	11
筑後支部	-	-	-	-	-
佐賀県支部	1	9	2	1	12
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	3	35	12	4	51
大分県支部	2	15	15	2	32
宮崎県支部	1	13	7	1	21
鹿児島	1	17	7	4	28
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	178	2,196	583	480	3,259

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆普及室からのお知らせ

■探鳥会リーダーズフォーラム開催要項■

7月号でお知らせしたとおり、財団普及室では全国支部等連携団体の探鳥会リーダーを対象に、探鳥会活動について議論するためのフォーラムを開催します。このフォーラムでは、全国の支部のリーダー同士が知り合い、支部を超えた交流を通じて探鳥会運営技術を向上することを目的としています。

あなたも、全国の探鳥会リーダーと交流しませんか？

◇概要

- 【名称】 探鳥会リーダーズフォーラム
【開催日程】 2015年2月7日(土)
13時～8日(日)12時
【会場】 八王子セミナーハウス
(<http://www.seminarhouse.or.jp/>)
〒192-0372
東京都八王子市下柚木 1987-1
電話 042-676-8511
FAX 042-676-1220
【参加費】 1万円(宿泊費込)
【対象】 日本野鳥の会の探鳥会活動に携わっている方
【定員】 60名(定員になり次第締め切らせていただきます)
【申し込み期間】 2014年9月20日～
11月15日(消印有効)
【主催】 (公財)日本野鳥の会
【スケジュール】
1日目(2月7日)
12:30 受付開始
13:30 オリエンテーション
14:00 探鳥会について話そう！
(ワールドカフェ)
15:30 分科会A
17:30 チェックイン
18:00 夕食
20:00 懇親会
2日目(2月8日)
6:30 早朝探鳥会
8:00 朝食
9:00 分科会B
10:30 休憩、移動

11:00 まとめ

12:00 終了

◇分科会

人数が定員に達しない場合はその分科会の開催を見送ることもあります。()は分科会担当者。

●分科会A(2月7日)

・「子どもたちの心に響く親子探鳥会を考えよう！」(ひょうご/丸谷)

親子探鳥会について考える体験・ワークショップ型の分科会です。子育て世代に関心を持ってもらえる、子どもたちの心に響く親子探鳥会について、実施している支部の事例を紹介してもらったり、実際に体験したりして、楽しくスキルを身につけていただきます。その後、ワークショップ形式でアイデアを出し合い、各支部に戻ってすぐに使えるプログラムづくりをします。

・「広がり！若手向け観察会「やってみたい」を応援します」(東京/石亀、長野/栃木、駒田/大阪支部、財団/富岡)

若手向け観察会は、神奈川支部・大阪支部・東京で開催され、今年新たに栃木でも始まり広がりました。でももっともっと広げたい！そこで「自分もやってみたい」と考えている担当者、応援者向けにノウハウを提供しちゃいます！3支部の開催実例を交え広報、観察会での留意点、失敗談、今悩んでいる課題などホットな話題満載！この分科会では、それらを共有し、若手向け観察会を今後どのように広めていけば良いかをみんなで考えます。

・「会員増の決め手かも！～会員を増やすための探鳥会を考えよう～」(東京/川端、財団/堀本)

現在、関東ブロックでは各所で『会員を増やすための探鳥会』が開催されています。この分科会では、その実施マニュアルや実施事例を紹介し、この活動を関東ブロック以外にも広げていくためにはどのような点に留意すればよいかを話し合ってみたいと思います。

- ・「探鳥会リーダー研修会について考えよう」(埼玉/橋口、栃木/手塚、財団/箱田)

支部発足以来、年に1回のリーダー研修を継続開催してこられた埼玉の事例をお聞きし、研修会の内容はもちろんのこと、なぜこんなにも長期にわたって研修会を続けてこられたのかを紐解いていきます。その後、研修会のプログラムの一部を体験していただきます。

●分科会B(2月8日)

- ・「雨の日に野鳥ファンを増やそう!室内イベントのすすめ」(東京/川端)

野外での野鳥観察授業を頼まれていたのに、当日になったら「雨天中止」なんて経験ありませんか?もったいないですよ、せっかくの「野鳥ファン」を増やす機会がフイになってしまうのは。でも、「雨の場合は室内でこんなことをしませんか?」と提案できれば、天候にかかわらず「野鳥ファン」を獲得できるはず。この分科会では室内プログラム「神秘の羽」を体験していただき、室内イベントで「野鳥ファン」を増やす方法を探ります。

- ・「コミュニケーションを大切にする探鳥会の進め方」(神奈川支部/鈴木 他)

探鳥会では担当幹事と参加者が、司会者と観客という立場になりがちです。参加者の中には人との関わりを求めて来る方もいますが、コミュニケーションが少なかったりしたせいで、同じ鳥を見たのに満足感が得られないまま帰る方がいるかもしれません。探鳥会に参加した方が充実感を味わえるコミュニケーションの方法を探ります。

- ・「ツバメのねぐら観察会を開こう ~全国ツバメのねぐらマップ~」(財団/富岡 他)

財団普及室で作成した「全国ツバメのねぐらマップ」について紹介し、非会員、初心者を対象にした「ツバメのねぐら観察会」の計画を呼び掛けたいと思います。身近な野鳥であるツバメの保護、そのねぐらであるヨシ原の保全についても考えてみたいと思います。

- ・「トコロジストのすすめ ~その場所の専門家を目指そう~」(財団/箱田 他)

「鳥の専門家」「虫の専門家」「植物の専門家」と同様に、ある場所については鳥も虫も植物もいろいろなことを知っているという人のことを「トコロジスト」といいます。この分科会では、様々なタイプのトコロジストから事例紹介

を受け、トコロジストであることの楽しさや意義などについて考えてみたいと思います。

◇申し込み方法

下記(1)~(9)を明記の上、メール、郵送、FAXのいずれかにて11月15日までに以下の申し込み先まで送付してください。折り返し詳細をお送りいたします。

(1)氏名 (2)年齢 (3)性別 (4)所属(支部・連携団体) (5)メールアドレス (6)電話番号 (7)住所 (8)参加動機(200字程度) (9)希望分科会(下の口の中から第3希望まで選び、記号を記入してください。)分科会の人数のバランスにより、必ずしも第1希望にご参加いただけない場合があります。

- ・分科会A(第1希望) (第2希望) (第3希望)
- ・分科会B(第1希望) (第2希望) (第3希望)

分科会A(2月7日)

- ア「子どもたちの心に響く親子探鳥会を考えよう!」
- イ「広がれ!若手向け観察会「やってみよう」を応援します」
- ウ「会員増の決め手かも! ~会員を増やすための探鳥会を考えよう~」
- エ「探鳥会リーダー研修会について考えよう」

分科会B(2月8日)

- カ「雨の日に野鳥ファンを増やそう!室内イベントのすすめ」
- キ「コミュニケーションを大切にする探鳥会の進め方」
- ク「ツバメのねぐら観察会を開こう ~全国ツバメのねぐらマップ~」
- ケ「トコロジストのすすめ ~その場所の専門家を目指そう~」

【申し込み、問い合わせ先】

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-9-23 丸和ビル(公財)日本野鳥の会普及室 探鳥会リーダーズフォーラム係
電話 03-5436-2622
FAX 03-5436-2635
メール tancho-staff@wbsj.org

■新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み■

◇恐ろしい話し？

新版は秋の発行を目指していますので、すでに追記や修正はイラストも文章も終え、分布図も終えて、編集段階となりました。取り組んだメンバーは安西とともに増補改訂に携わった田仲謙介、叶内拓哉に渡部良樹が加わり、さらに小田谷嘉弥、亀谷辰朗、橋本宣弘、箕輪義隆の各氏にも修正箇所のご指摘、ご教示をいただきました。図版は増補版以後は谷口高司で、高野伸二を師と仰ぐ谷口さんだからこそ、高野さんと同じ絵の具を使って原画を損なわないように高野図版の微修正にも取り組むことができました。

上記の方々とメールや電話で相談したり、議論したりして検討を続けてきましたが、ほとんど一人で図版も解説も担当された高野さんが、1982年の野鳥誌に『フィールドガイド日本の野鳥』の全図版を描き終えて書いた「ああ、おそろしい話」を読み返してみました。

「ツグミの個体差をどこまで示せばよいか？」に始まり、自身の観察ではよくわからなかった眼の色や足の色をどう描いたらよいのか？など調べに調べて、悩みに悩んだ経緯が紹介されています。当時ほとんど知られていなかったサギ類の婚姻色については吉井正さんに、シギの幼鳥の羽衣については塩田猛さん（いずれも故人）に教えられたことなどにも触れていました。どこまで裏話を明かしてよいものか？と気まずい思いもあるのですが、連携団体の皆様の情報も活用させていただいている図鑑でもあるので、高野さんに倣って正直に書かせていただきます。

◇東アジアか？世界か？

鳥類の分布や習性などわかっていないことが多いし、地域や季節や年による違い、時代による変化もあることをご存知の皆様は、図鑑に100%はあり得ないことはご理解いただけたらと思います。でも、図鑑に関わる以上は、そのミッション・インポッシブルに挑まなくてはなりません。

野鳥の分布は変化するし、新たな知見も加わるので、増補改訂時でもカワウやミヤマガラスの分布拡大に沿って分布図を修正しました。近年は世界地図で分布を示す図鑑も発行されて

おり、『フィールドガイド日本の野鳥』もそうして欲しいというご希望もありました。現状の東アジアの地図でも、コゲラやヤマガラスなど世界的に分布が狭いことは十分わかりますが、クマゲラやヤマゲラがヨーロッパにかけて広く分布していることやミユビゲラにいたっては北米までいることなどは、世界地図でないとわかりません。

しかし、種ごとの分布を世界地図で示そうとすると、野外で持ち歩くサイズの図鑑では日本が小さくなって、識別に必要な情報を得にくくなってしまいます。また、高野図鑑の特徴として種の解説の前に科の解説があり、そこで科ごとの世界分布に触れています。私自身、ミソサザイやホオジロの仲間がアメリカ大陸に多いことを知ったのも高野図鑑によってです。

現状の東アジアの地図でさえ県以下の地域を示すのは大変で、ミコアイサやサンカノゴイの繁殖地などにピンクの点が記されていますが、私には虫眼鏡がないと確認できません。

◇シジュウカラは五島列島にいる？

メジロやヒヨドリ分布図を見ると、初版の段階から佐渡島から小笠原諸島に至るまで主な島の分布までわかります。一方でハシブトガラスやハシボソガラスの分布図には、佐渡、隠岐、五島列島などが示されていません。佐渡については佐渡支部が佐渡鳥類目録まで発行しているのに、反映されていなかったのです。そこで、新版では観察頻度が高い種については主な島の分布を示すべく、昨年末から調べてきました。もちろん、日本鳥類目録改定第7版が元にはなるのですが、目録も100%ではありません。

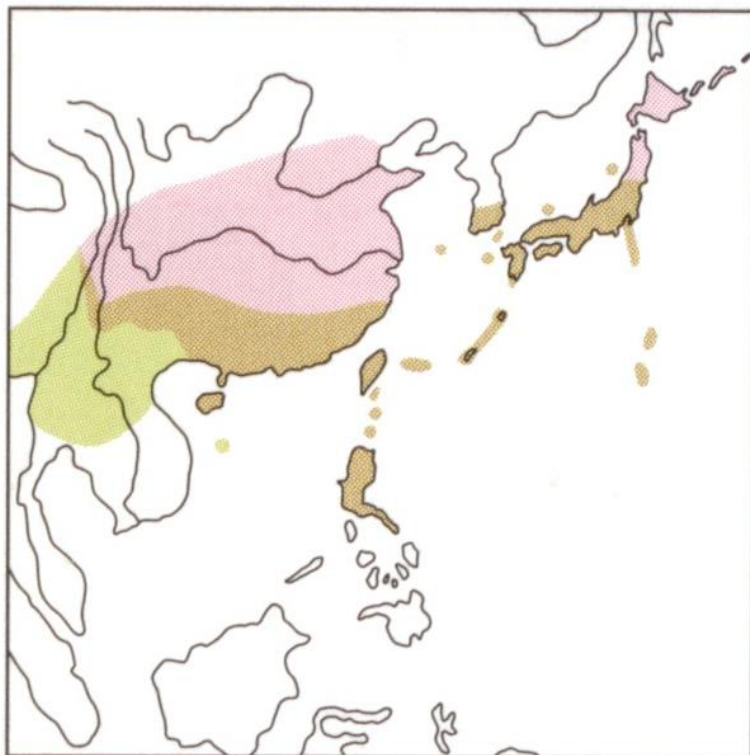
例えば、シジュウカラ。目録に準拠させて学名の種小名や英名の変更はもちろん、大陸のものとは別種とされたので別種の分布範囲を削除する措置も施しました。島嶼部での生息については目録では五島列島に周年生息するように書かれています。が、五島列島でも島による違いもあるはずで、一番大きな福江島の状況を反映させようと、出口敏也さんに相談しました。私がデアゴステーニ発行『週間野鳥の世界』の観察地ガイドの監修をしていた頃、福江島を扱う際に、長崎支部から紹介いただき現地の最新

情報を確認すべくお世話になった方です。出口さんによるとシジュウカラは記録されたばかりで普通に見られる種ではないようなので、新版では佐渡や隠岐は周年生息を示す茶色を加えましたが、五島列島には加えませんでした。

ついでながら島の分布を調べていて、日本で一番分布が広い鳥は何か？が気になってきました。ウグイスという人もいますが、北海道では秋冬に見られないので私はヒヨドリではな

いかと考えています。ただ季節を問わず、小さな島も含めるとしたら、イソヒヨドリも候補でしょう。今回、国後やエトロフも含めて調べた島々ではすべて見られるようですし、ヒヨドリが旅鳥として通過するだけの小さな島でも、イソヒヨドリなら繁殖している可能性があるからです。

(普及室／安西英明)



▲メジロの分布図：FGのP266

これを超えるものは、大東諸島まで示されている全国密猟対策連絡会発行の『ごまかせません!!メジロの国籍』にある分布図くらいではないでしょうか？

(英語で書かれたものではMark Brazil 著の『Birds of East Asia』の分布図は島の分布にも配慮されている)

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信9月号の電子メール版の購読者数は、先月から23名増えて804名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表2. 探鳥会スタッフ通信9月号電子メール版の購読者数（2014年9月17日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	1
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	1	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	5
道南松山	1	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	2
弘前支部	4	三重	16
秋田県支部	1	奈良支部	1
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	2	京都支部	131
北上支部	1	大阪支部	18
宮城県支部	38	ひょうご	5
ふくしま	2	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	6
会津支部	2	山口県支部	2
奥会津連合	0	香川県支部	3
いわき支部	1	徳島県支部	4
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	20	北九州	12
栃木	45	福岡支部	12
群馬	23	筑豊	20
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	34	佐賀県支部	3
千葉県	15	長崎県支部	1
東京	45	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	13	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	1	石垣島支部	1
石川	5	西表支部	2
		合計	804

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）
ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアド

レス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

近くの公園には彼岸花が咲き、すっかり秋らしく、過ごしやすい日々が続いています。
今月号では、来年2月の「探鳥会リーダーズフォーラム」の開催要項を掲載しています。皆さんのお申し込みをお待ちしています。

（普及室／堀本理華）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第18号

◆発行

(公財)日本野鳥の会 2014年9月19日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635

E-mail : tancho-staff@wbsj.org
